

KYOTO AGORA2021 プロジェクト 計画書（令和4年度）

グループ名	コモンズ
プロジェクトの目的	<p>現代都市は、私権による分断と公権の開発独裁が跋扈するようになってしまった。この状態を超克するために、私でも公でもない、第3の道としての「共」による空間をつくり上げることを目的とし、この方法を「コモンズ」と名付ける。コモンズとは、公と私の間であるとともに、ヒトモノコトの連関により創造されるものである。ここで目指されるのは、私有から共有へ、所有から使用へ、トップダウンからボトムアップへ、経済性から幸福感へ、という転換を、都市空間に促すことである。</p> <p>また、戦後復興と不良住宅地改良を旨とした全国一律の現行法制度とは異なる、京都の実空間に適した新しい都市マネジメントの構築に資することを旨とする。京都に残るろーじ空間を、前近代的ノスタルジーの対象として終わらせるのではなく、新しい共の都市運営ケースとして位置づける。京都を里山と町中の連続体として、コモンズの議論を着地させることを考える。また、その議論の検証の舞台ともする。</p> <p>コモンズをめぐる議論は一定の蓄積があるが、反面拡散の傾向もある。本プロジェクトでは、議論の焦点を上記のように明確にするとともに、実践活動を組み込むことで、問題の検証と社会実装を企図している。</p>
目的達成に向けた手段	<p>（全期間を通じた「目的達成のための手段」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連続研究会Ⅰ…参加者によるコモンズ研究会 ・連続研究会Ⅱ…学外者（1～2人）を招いての討論会 ・コモンズ・シンポジウム開催（学外者数人の登壇） ・コモンズ・リサーチ…京都/日本/世界のコモンズを調査する ・社会実験1…10人でつくる：ろーじのコモンズ ・社会実験2…100人でつくる：学区のコモンズ <p>（今年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連続研究会Ⅰ…参加者によるコモンズ事例研究（7月～2月） ・コモンズ・リサーチプロジェクト <ul style="list-style-type: none"> - 京都松ヶ崎・集落調査（10～3月） - 京都市下京区・ろーじ調査（7月以降） - 京都水尾・集落調査（10～3月） - 鶴岡市・つるおかランドバンク（11月頃） - イタリア・トスカーナ等・ロジリア集落（2月頃） - ベトナム・ハノイ市等・街区・街屋祠堂調査（2月頃）

<p>想定する成果</p>	<p>(最終的な成果)</p> <p>コモンズをめぐる議論を整理し、「コモンズ空間学 (仮称)」の構築を目指す。同時に、その思考をまとめた書籍を出版する。</p> <p>研究会・臨地調査での知見・考察を基に、社会実験を行う。ここで用いた方法を成文化するとともに、対象地域で継続的な活動として定着させる。</p> <p>(年度内の成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連続研究会 I を開催する。 ・連続研究会 II を開催する。 ・上記研究会の報告書作成 ・学会誌への論文投稿 (International Journal of the Commons 等) 		
<p>メンバー構成</p>	<p>学内</p>	<p>所属・職・氏名 (リーダー◎)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン・建築学系・准教授・赤松加津江 ・未来デザイン・工学機構・准教授・井戸美里 ・デザイン・建築学系・助教・岩本一将 ・D-lab・特任教授・魚谷繁礼 ・未来デザイン・工学機構・准教授・大田省一◎ ・繊維学系・准教授・岡久陽子 ・未来デザイン・工学機構・特定教授・門勇一 ・電気電子工学系・准教授・北村恭子 ・デザイン・建築学系・特任准教授・金野千恵 ・デザイン・建築学系・教授・阪田弘一 ・デザイン・建築学系・准教授・村本真
	<p>学外</p>	<p>所属・職・氏名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コモンズ研究者 ・都市計画研究者 ・コミュニティ活動者